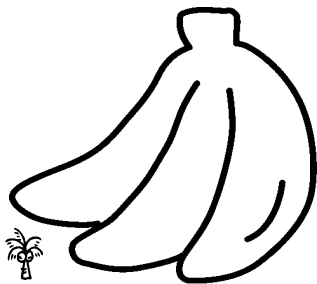


ばななだより

草笛学園 2024年 7月号



* 生活の流れを身につけ(近い)見通しをもって生活する力

〈略〉今の子ども達の多くは「指示待ちっ子」です。一つひとつ指示されないと生活行動がスムーズにできないという状況が見受けられます。それは、これまで非常に細切れの指示の中で生活してきたからだと考えられます。

〈略〉今の子どもたちが、「早くしなさい」と細切れの指示を受けて、追い立てられるように生活している姿を思い浮かべることができます。朝目覚めた時から、「早く起きなさい。早く着替えなさい。早くご飯を食べなさい。『いただきます』を言いなさい。…」等々と言われ、それを一つずつこなしながら生活しているようです。これでは、子どもたちが本当の意味で生活の主人公になっているとは言えません。受け身なのです。

「でも、うちの子どもは、一つずつ言わないと何もしないのです」とおっしゃったお母さんもいらっしゃいました。その方の気持ちもよく分かります。けれど、今まで何年間か育ててきた過程のなかで、子どもが受け身になってしまったのです。子どもの責任ではなくおとなの責任なのではないでしょうか。おとなの方が、その関係性をどこかで切り換えていかなければなりません。

保育所の先生から、次のような話を教えてもらったことがあります。その先生は、転勤で保育所が変わりました。新しい保育所で、初めて会う四歳児を担当しました。そのクラスの子どもたちは、「先生、次、何スルノ?」「次、何シタライイノ?」と、しばしば聞きに来るのだそうです。先生は、最初は一つひとつ答えていました。でも、常に指示を待っている子どもたちは、あまりにも生活態度がうけみなのではないかと感じ、途中から対応を変えてみました。「あなたは何がしたいの?」「あなたは何をしたらいいと思う?」と聞き返すようにしたのです。すると、次第に子どもたちは、「先生、次は〇〇ヲスルンダッタヨナァ」と確認に来たり、「先生、〇〇シタイノダケド、シテモイイ?」と了解を求めに来たりと変わっていったそうです。

子どもが生活や活動の見通しを持てるように、おとなは工夫をしなければならないということが分かります。保育所の中だけではなく、家庭の生活においても同様のことが言えるでしょう。

たとえば、毎日の生活日課をきちんと確立しましょう。同じリズムで同じ活動を繰り返す中で、子どもは生活の流れを理解し、「コレノ次ハ、アレヲスル」ということが分かるようになっていきます。そして、毎日の生活と違うことをする日には、子どもが分かってもらわなくても、前もって説明しておくことが必要です。突然、「さあ、〇〇をしなさい」と言われても、子どもは混乱してしまうでしょう。時計が読めなくても、「〇時になったら、こうするからね」と予定を前もって説明しておくことが大事なのではないかと思います。生活の中には「時間」があることを少しずつ伝えていきましょう。

子どもが周りからの指示で追い立てられて生活するのではなく、子ども自身が見通しを持ちながら生活するということが大切です。それが、本当の意味で子どもが生活の主人公になれるということなのではないでしょうか。

参考文献:小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し 丸山美和子・著



【次回のばなな教室】

ばなな①: 8月1日(木) プール

持ってくるもの…水筒・水着セット・タオル

ばなな②: 8月はありません。



「参加される皆様へ」~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費はおやつ代 100 円です。製作やクッキングの活動の時には、材料費として追加で 100 円いただきます。その都度連絡いたします。
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意してください(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください